



調理食品の支出



- 家計調査結果（二人以上の世帯）より -

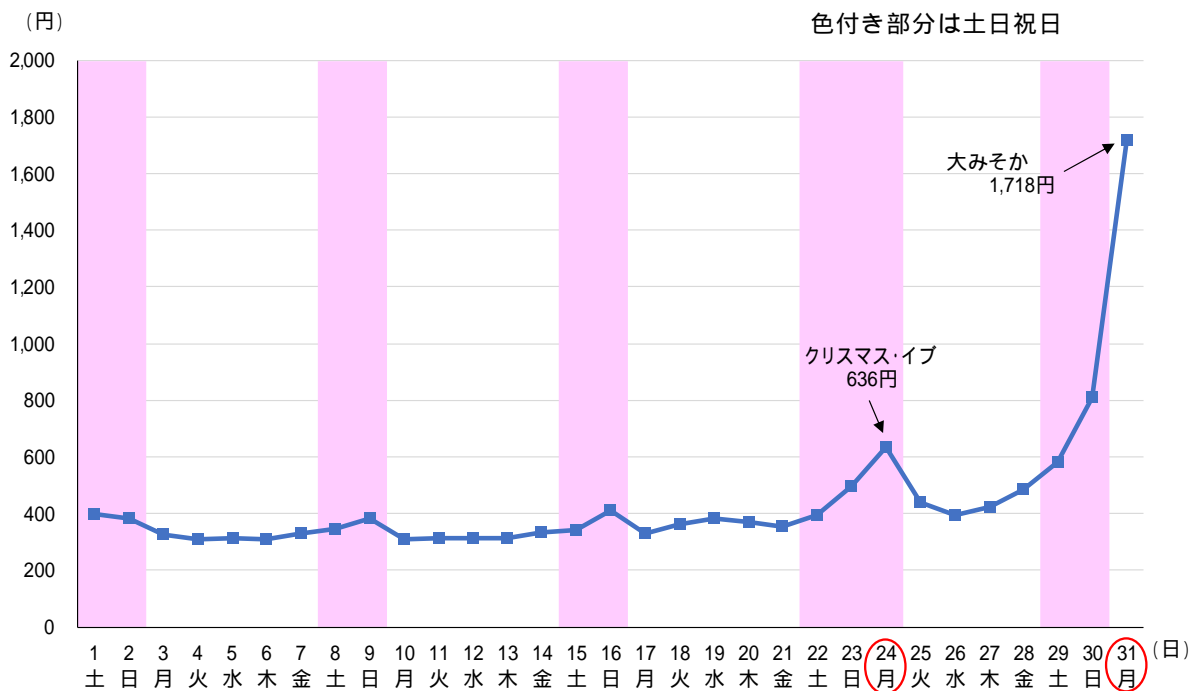
今年も残すところあとわずかとなりました。12月は、クリスマス、年越しなどイベントが多くあり、家族そろってご飯を食べる機会も多いのではないのでしょうか。さらに、正月に向けた準備もあります。そこで今回は、おせち料理などが含まれる「調理食品」の支出について、二人以上の世帯の結果から見てみましょう。

「調理食品」には、弁当、おにぎり、そうざい、冷凍食品などが含まれます。

クリスマス前から年末にかけて増加する「調理食品」の支出

まず、2018年12月の「調理食品」の1世帯当たりの支出金額を日別にみると、クリスマス・イブの24日に支出が増加しており、大みそかの31日には1,718円と、12月の1日当たり平均支出金額（439円）の約4倍となっています。大みそかには、お正月に向けておせち料理などを購入している家庭が多いと考えられます（図1）。

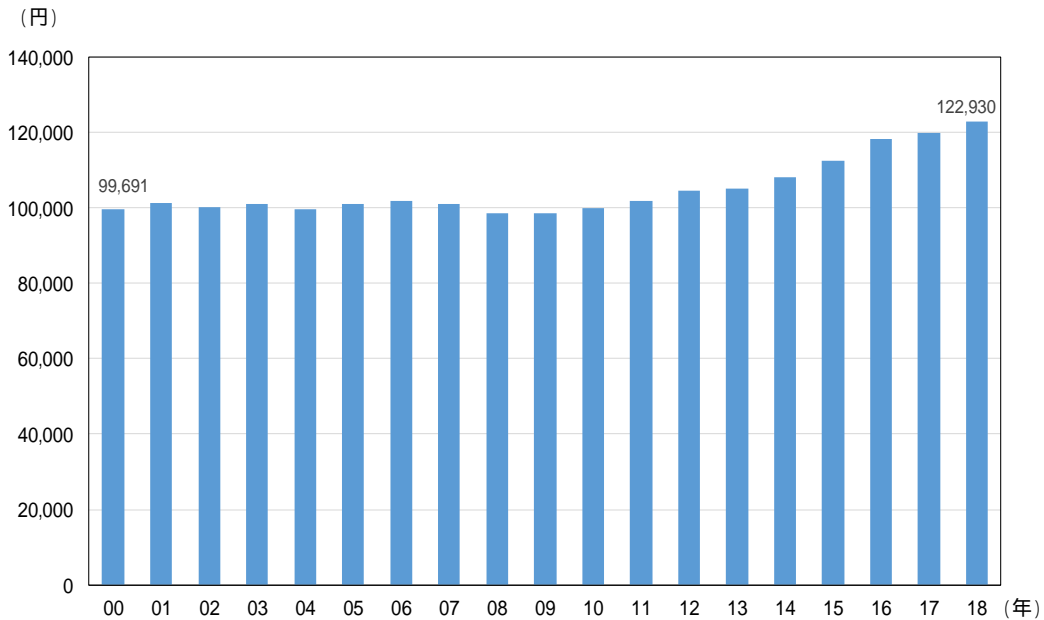
図1 「調理食品」の1世帯当たり日別支出金額（2018年12月）



「調理食品」の支出は増加傾向

次に、「調理食品」の1世帯当たりの年間支出金額の推移をみてみましょう。2000年代はほぼ横ばいとなっていました。2010年から増加傾向となっています。2018年の支出金額は122,930円と、2000年(99,691円)の1.2倍となっています(図2)。

図2 「調理食品」の1世帯当たり年間支出金額の推移(2000年~2018年)



50歳代以上の世帯で支出金額が大きく増加

最後に、世帯主の年齢階級別に「調理食品」の年間支出金額の内訳をみると、2000年は40~49歳の世帯が119,457円と最も多かったのに対し、2018年は50~59歳の世帯が134,567円と最も多く、最も少ない39歳以下(102,494円)の1.3倍となっています。2000年と2018年の支出金額を比較すると、60~69歳の世帯は40,415円、70歳以上は31,124円の増加となっており、年齢階級が高い世帯で大きく増加しています(図3)。

図3 「調理食品」の世帯主の年齢階級別1世帯当たり年間支出金額(2000年、2018年)

